

新たな時代を生きるロータリー

国際ロータリー 第2620地区

2021-22年度 ガバナー

小林 聡一郎(甲府北RC)



変化の潮目、ロータリーへの問い

今世界は、SDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、気象変動、脱炭素などの環境問題で、次世代に負担を押し付けられない社会の実現に向けて取り組み、差別・抑圧・蔑視にみる人権問題などで、多様性を受け入れ、公平で開かれた社会に向けての模索を続けています。これまでのやり方が根底から問われ、変えるべきは変えながら新しい社会で新たな幸福を追求していく過程を今の私たちは歩んでいるのだと思います。

ロータリーも同じです。ここしばらくの変化を助走として、今私たちは大きな変革にさしかかっています。これまでへの郷愁は当然ありますが、そこに浸ってばかりもいられない大きな潮流の、新たな時代の中にいます。

それに加えて、人類が初めて経験した短期間での新型コロナウイルスの蔓延は、世界中を混乱に陥れ、未だに収束せず私たちの行動を制限し、さらには新種変異型ウイルスの出現もあって、誰もがどうなるという確証もないまま漠然とした不安の中で生活しています。

ロータリーの例会や地区セミナー、周年記念式典もIMも軒並み中止となり、長く休会が続いたクラブの求心力を保つのに、会長・幹事は苦労したでしょうし、奉仕活動にしても何をしたらいいのか、と悩まれたことと思います。

今回のコロナは全世界を席巻して、ここまで積み上げてきた経済や暮らしを、さらには平和に対する概念をも根底から揺さぶった感じですが、コロナはロータリーに根源的な問いを投げ掛けたのだと思います。

「ロータリーは本当に今のままでよいのか？」

「クラブは本当に会員の力になれるのか？」

「ロータリーは世界や地域に何ができるのか？」

それらの問いには、これからどうなっていくのかの見通しがつかなければ簡単に答えられませんが、どのように会員の結束を図り、クラブに留まっていたか、ウィズ・コロナを共に闘って、その中でロータリーをより力強く、より会員のため地域のためになるようにして、平和な世界にしていくのか、ということ私たちに投げかけたのだと思います。

新たな時代に踏み出す

例会が再開でき、これまでのような活動ができるようになった時に、クラブはどのように動けばいいのか。この時こそクラブのこれからのスガタを皆で考え、話し合い、決めていくきっかけにしていきたいと思えます。

それを言葉としてまとめるのは、やはりクラブ戦略計画です。クラブのこれからをどうしていくのかを考えるとさっかけになります。

これまでのクラブ運営に、特に問題があるわけではないと思っている会員もいます。一方で、何となくの停滞感を感じたり、これを機会にクラブを新しくしていきたいと思っている人もいます。「コロナが終息した世界は、もう元には戻れない」とWHOのテドロス事務局長が発言していますが、クラブもやや同じだと思います。新たな生活様式と表現されますが、それはクラブも同じで、多分コロナで孤立を余儀なくされ、奉仕活動もままならなかった会員が、家に留まってきたことでの心的変化に起因しているのだらうと推測します。

しかしコロナ禍を福に転じるとすれば、これからの時代にクラブをこんなふうにしていきたい、という、なりたいクラブの像が共有できれば、そこを目指してやっていくと一歩も二歩も踏み出していくいい機会ではないかと思えます。シンプルに考えれば、意識を共有し一緒に行動して活性させる、ということになります。

でもこれが難しい。いわゆるモチベーションギャップもあれば年齢ギャップもあります。ですからこれらをどう扱うのか、というところに戦略計画があります。つまり、一人一人がクラブの将来像を共有して、各々が役割を担い、そこに向かって実際行動を起こせる計画作り、ということです。皆の力を集めることのできるクラブとして、ウィズ・コロナの中で自分達はどのように進んでいくのか?の考え時ではないでしょうか。

互いに共通認識のもとにクラブを活性させて、例会を尊び、気心の知れた仲間と一緒に楽しく活動して、地域のお役に立ちながら自分を高める機会とすることができるクラブ、ということだと思いますが、それをクラブ委員会活動としてどのように落とし込んでいくのが委員長のやるべきことになります。

国際協議会で学んだこと

2021-2022年度に向けての国際協議会は、フロリダ・オーランドで開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的蔓延により、全てをオンラインで開催する初めての国際協議会になりました。

今回は世界中からZoomに参加する時差の関係もあって、2月1日から11日までの日程で開催され、ガバナーエレクトとして5回の本会議、6回の分科会、2回のセミナーに参加しました。

5回の本会議は、RI年度方針や主要メンバーによるスピーチ、それに対してのロータリーの取り組みや考え方などの情報を受けるセッションが主でした。

各分科会は、その本会議での情報を受けてのセッションでした。6回の分科会は独立した分科会ですが、互いが連動していて、前の分科会で考えたり話し合ったことなどが後の分科会の討議の検討項目として出てきたりしますので、気の抜けない11日間となりました。

私が参加した最初の分科会は、40歳代の女性研修リーダーにより進行され、Zoomにより振り分けられた日本4人、アメリカ2人、オーストラリア2人、タイ2人による1時間30分のセッションでした。その分科会では、「昨夜の本会議でのシェカール・メータRI会長エレクト強調事項、『会員増強』『ロータリー奉仕デー』を、どのように計画し、準備し、実行して、評価するのか?」を「クラブAction Plan」に書き込むことについて話しあいました。この「Action Plan」は私たちが言う「クラブ戦略計画」のことです。クラブの中長期を考えた戦略計画ではなく、RI会長エレクトの強調項目を次年度実現するための実際の取り組み、すなわち「Action Plan」に、ということでした。

その後の分科会は、「参加者の会員基盤を広げる」「世界を変える行動人」「奉仕のインパクト」「ロータリーでの経験を向上させる」「行動しよう」などで、日本のガバナーエレクトとロータリーアクトの分科会や、各国の混成チームでの話し合いもあり、多様性での違いを強く認識する協議会となりました。セミナーは、ロータリー財団のWFとグローバル補助金の醸成(きよん)比率の変更などについて、グローバル補助金が活発に使われるようになったことによる資金不足対応についての説明でした。

『SERVE TO CHANGE LIVES-

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』

第一本会議で発表されたシェカール・メータ次年度RI会長テーマは、「SERVE TO CHANGE LIVES-奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」です。

「奉仕する時、だれかの人生だけでなく、自分の人生も豊かになります」「奉仕とは自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃です」などの言葉と共に発表されました。

そのシェカールスピーチに出てきたキーワードは、

「GROW MORE DO MORE」

もっと成長しよう、もっと行動しよう。

「もっと成長」は、会員を増やし参加者基盤を拡げよう。その手法として「each one, bring one みんなが一人を入会させよう」。

「もっと行動しよう」は、「ロータリー奉仕デー」を各クラブが実施して、より大きなインパクトをもたらそう、ということです。

次年度取り組み行動プラン「クラブAction Plan」の作成を、各クラブは次年度の活動を計画され、計画書を作成することと思いますが、それらの計画書や、クラブ中長期を考えるクラブ戦略計画とは別に、「SERVE TO CHANGE LIVES- 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」の実現に向けて、またガバナーの重点活動について、クラブとしてどのように実行するのかの計画、すなわち、「次年度取り組み行動プラン『クラブAction Plan』」を作成し、クラブ運営に反映させていただきたく、よろしく願いいたします。

次年度、クラブ会長、幹事ははじめ、奉仕委員長、会員の皆さまと一緒にRI第2620地区を「GROW MORE DO MORE」出来ませう、ご理解ご協力をよろしく願いいたします。